

II 各論

1. 哺乳類

1 石川県の哺乳類相（陸棲）

日本国内の哺乳類の生息確認は帰化種を含めると 31 科 72 属 134 種で、土着の哺乳類だけでも 23 科 57 属 110 種と非常に多くの種が生息している。また 110 種のうち 44 種が固有種、6 属が固有属であることも大きな特徴である。日本の国土は面積が狭いにもかかわらず、南北に 3,000km と細長く、気候帯の上でも亜熱帯から亜寒帯まで含み、地形が急峻で高山も見られることから植物地理学上も多様性に富んだ自然環境が見られる。また、アジア大陸の東端に位置する列島であることから、地殻の変動や氷河期の海水面の上下により大陸からの侵入や孤立を繰り返し、大陸から強い影響を受けている反面、孤立により独自の進化を遂げた部分などがある（阿部ら 1997, 2007）。

県内では 2000 年のいしかわレッドデータブック〈動物編〉の発行段階で 18 科 53 種の哺乳類が確認されているが、その後の調査でコウモリ 2 種の生息が確認され、いしかわレッドデータブック 2009〈動物編〉時点では 18 科 55 種が確認されていた（石川県 2009）。これを日本の哺乳類相と比較すると種数で半分と少ないが、それは、生物地理学的に完全に異なる沖縄県や北海道などの区域を含んでいるため、同じ生物地理学的区域に属する本州、四国、九州の種数と比較すると、種段階ではほぼすべての種が確認されている。本県は南北に細長く、しかも海岸から高山までを含み、急峻で入り組んだ地形が多く、多量の積雪があることから、多様で特徴のある哺乳類相が残ってきた。オコジョやアズミトガリネズミ、ヒメヒミズ、ミズラモグラなど、高山の山岳地にだけ分布する種や原始的な森林にしかないコウモリ類が分布することなど、哺乳類相の豊かな県といえる。また、コウモリ類の一部には繁殖が確認されていないものもあるが、本県はほとんどの種で繁殖が確認されており、県内には哺乳類の生息に適した環境が残されているといえる。さらに 2019 年現在では、ヒナコウモリ科 1 種、イタチ科 1 種、アライグマ科 1 種が加わって、県内では 19 科 58 種の生息が確認されている。今回の増加種のうち、ヒナコウモリ科のヒメヒナコウモリは新記載であり、イタチ科のチョウセンイタチとアライグマ科のアライグマはいずれも外来生物種である。

哺乳類相から県内を加賀地方と能登地方に大きく二分することもできる。加賀地方には県内の全ての哺乳類の生息が確認されているのに対し、能登地方は、加賀地方の約半数にあたる 11 科 26 種しか生息が確認されておらず、大型哺乳類や高山性の小哺乳類を欠いている。加賀地方の種の多様さを際立たせているのは、能登地方にはない白山を中心とした広い山岳地域の存在である。この地域において冬期間の多量の積雪が人間活動を制限し、良好な自然環境が残されてきた結果といえる。

県内で最も多くの種がいる分類群はコウモリ類で、キクガシラコウモリ科とヒナコウモリ科、ユビナガコウモリ科の 17 種が確認されている。次いで多いのはネズミ科とモグラ類（トガリネズミ科とモグラ科）で、どちらも 9 種が確認されている。空中と水中、地上あるいは地下とそれぞれの生活の場は異なるが、いずれも、体の小さな哺乳類で、これらを合計すると 35 種にもなり、石川県で確認されている種の 6 割近くになる。これらの種については県全体の概要がほぼ明らかになってはいるが、研究者も限られているため、詳細については今後も調査を継続しデータの空白を埋めていく必要があると考えられる。

2 種の選定基準

種の現状を客観的に評価するには、過去から現在までの個体数、分布域などの変化を継続的に捉えていく必要がある。しかし、現状は分布データも不完全であり、個体数についてはごく一部の種しか分かっていないことを認めざるを得ない。そのため、今回の選定に際しては次の基準で種を選んだ。

- 1) 「いしかわレッドデータブック 2009 (動物編)」に掲載されている種で、環境省の「レッドデータブック 2014 哺乳類」に掲載されている種。
絶滅危惧Ⅰ類 ホンドノレンコウモリ、モリアブラコウモリ、クビワコウモリ、クロホオヒゲコウモリ、ヤマコウモリ、ヒメヒナコウモリ
絶滅危惧Ⅱ類 アズミトガリネズミ、ニホンウサギコウモリ、ミズラモグラ
準絶滅危惧 ホンドオコジョ、カワネズミ
- 2) 「いしかわレッドデータブック 2009 (動物編)」に掲載されている種で、引き続き県内の個体数が少なく、しかも生息条件が悪化しているため生存が脅かされている種。
絶滅危惧Ⅰ類 該当なし
絶滅危惧Ⅱ類 ヒメホオヒゲコウモリ、カグヤコウモリ、テングコウモリ、コテングコウモリ、
準絶滅危惧 ヤマネ、ニホンモモンガ、カヤネズミ、シントウトガリネズミ、ヒメヒミズ
- 3) 上記のいずれにも該当しないが、県内の個体数が少なく、しかも生息条件が悪化し生存が脅かされているため、新たに掲載する種。
絶滅危惧Ⅰ類 ヒナコウモリ
準絶滅危惧 ヤチネズミ
- 4) かつては生息し、現在は全く生息しない種。
絶滅種 ニホンカワウソ、ニホンオオカミ

野崎英吉

ニホンカワウソ

ネコ目 イタチ科

Lutra lutra (nippon) Temminck

石川県カテゴリー 絶 滅

環境省カテゴリー 絶 滅

- **選定理由** 昭和初期まで生存していたものの、現在では絶滅したとされている。
- **形態** 四肢の指の間には水掻きがあること、尾が太く円錐型をしていること、歯は大きく鈍臼歯状であることから、ほかのイタチ科の動物と区別できる。
- **生態** 水中で魚類、甲殻類、陸上で野ネズミ、鳥類など捕食し、川岸に巣穴を掘り、家族単位で生活する。
- **生息環境** 河川の中下流部から沿岸部に生息していた。
- **国内分布** かつて、北海道から九州まで、対馬などの離島を含めた河川に生息していたが、高知県南西部で1983年に確認されたのが最後となっている。
- **県内分布** かつては県内広く分布していたと思われる。白山市では大正に、七尾市では昭和初期まで生息していたという。
- **危険要因** 河川環境の変化と乱獲のため絶滅したと思われる。
- **特記事項** 2017年に対馬でカワウソの生息が確認されたが、糞によるDNA分析の結果からユーラシアカワウソの系統であるとされた。ワシントン条約附属書 I に掲載されている。
- **参考文献** 2

八神徳彦

ニホンオオカミ

ネコ目 イヌ科

Canis lupus (hodophilax) Imaizumi & Yoshiyuki

石川県カテゴリー 絶 滅

環境省カテゴリー 絶 滅

- **選定理由** 江戸期まで生存していたものの、大正期以降の生息情報はない。
- **形態** 全身は灰褐色から黒褐色の毛に覆われ、尾は太く房状をしている。国内に生息するイヌ科動物の中で最大。歯は切歯、犬歯、小白歯(裂肉歯)、臼歯に分かれる。頭胴長95~114cm、尾長30cm。
- **生態** 雌雄1対で繁殖し、家族群でシカやイノシシなどの草食動物を追い餌とする。
- **国内分布** かつてエゾオオカミは北海道、ニホンオオカミは本州、四国、九州に生息した。エゾオオカミは1800年代に絶滅し、ニホンオオカミは1905年に奈良県鷺家口で捕獲されたとの記録がある。
- **県内分布** 1800年代前半までは金沢周辺や能登半島、白山麓にかけて生息したとの聞き書きがある。
- **特記事項** ワシントン条約附属書 II に掲載されている。
- **参考文献** 3, 4

野崎英吉

ノレンコウモリ

コウモリ目 ヒナコウモリ科

Myotis bombinus Thomas

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 極めて限られた場所でしか確認がされていない。
- 形態 前腕長37~43 mm、頭胴長44~55 mm、尾長38~48 mm、体重5~10 g。耳珠が細長く9mm以上あることが本種の特徴である。
- 生態 昼間のねぐらは、洞窟などが知られている（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015。冬眠場所および出産・哺育場所も洞窟を利用する（佐藤ら 2008）。
- 生息環境 自然林内に生息する。
- 国内分布 北海道、本州、四国、九州（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 県内分布 白山市尾添の冬季用隧道（山本ら 2002、山本ら 2005）と金沢市額谷の廃坑（山本 2016）。
- 危険要因 自然林の減少。
- 特記事項 原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。
- 参考文献 3, 16, 32, 34, 43, 44, 47, 48



山本輝正（2007年8月8日、長野県飯田市）



山本輝正

県内の分布

クロホオヒゲコウモリ

コウモリ目 ヒナコウモリ科

Myotis pruinus Yoshiyuki

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 日本固有種で、極めて限られた場所でしか確認されていない。
- 形態 前腕長30~35 mm、頭胴長37~45 mm、尾長31~40 mm、体重3~5 g。
- 生態 森林内で飛翔している中型・小型の昆虫（ガやガガンボ等）を餌としている。他の森林棲のコウモリと同様の生態をしているものと考えられる。
- 生息環境 ブナ林帯より下部の森林帯や照葉樹林帯に分布する林と結びついて広く生息していたと想像される（前田 2001）。
- 国内分布 本州、四国、九州（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 県内分布 白山市白峰地区市ノ瀬と六万山周辺（山本 1990、1994、1995、山本ら 2002、2005、前田、私信）と同市中宮（山本ら 2002、2005）。
- 危険要因 本種の生息する低山の照葉樹林等は分布が分断され、点々と残存するのみで、きわめて危機的な状況といえる。
- 特記事項 県内では、3ヶ所の生息地全てで当歳獣が確認されている（山本 1990・1994・1995、山本ら 2002、2005）ことから白山周辺の標高500~700m前後の自然林は全国でもめずらしい本種が継続的に繁殖のできる場所と考えられる。このため、白山市白峰地区の市ノ瀬の六万山周辺及び同市中宮の森林は、クロホオヒゲコウモリの生息にとって特に重要であると言える。両地区周辺の森林の保全・保護が望まれる。
- 参考文献 3, 16, 32, 38, 39, 40, 43, 44, 47



山本輝正（2002年8月15日、石川県白山市）



山本輝正

県内の分布

モリアブラコウモリ コウモリ目 ヒナコウモリ科

Pipistrellus endoi Imaizumi

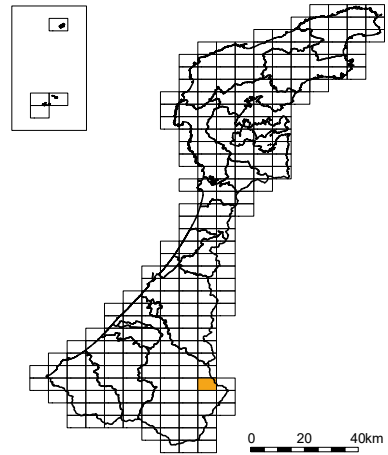
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 日本固有種で、極めて限られて場所でしか確認されていない。
- 形態 前腕長30~33 mm、頭胴長40~50 mm、尾長28~39 mm、体重5~9 g。外見はアブラコウモリと似ており、体色と上顎の犬歯の形状、陰茎骨の形状で区別する。
- 生態 昼間のねぐらは樹洞であるが、詳しい生態は不明。
- 生息環境 自然林内に生息する。
- 国内分布 本州と四国（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 県内分布 白山市中宮（山本ら 2005）。
- 危険要因 原生林地域にのみ生息するため、その生息地はきわめて限られている。
- 特記事項 白山市で捕獲されたメスは授乳中で出産・哺育が確認されている（山本ら 2005）。白山市中宮の森林は、本州の生息にとって特に重要である。周辺の森林の保全・保存が望まれる。
- 参考文献 3, 16, 32, 43, 44, 47



山本輝正（2014年8月14日、岐阜県下呂市）



山本輝正

県内の分布

クビワコウモリ コウモリ目 ヒナコウモリ科

Eptesicus japonensis Imaizumi

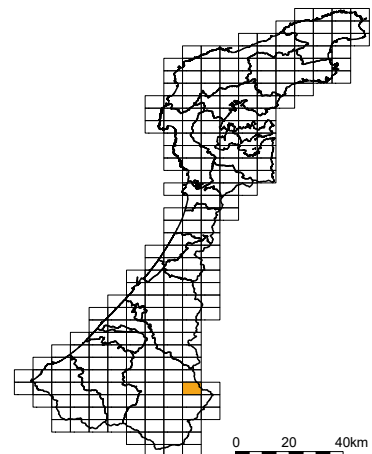
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 日本固有種で、生息確認場所は極めて限られている。
- 形態 前腕長38~43 mm、頭胴長54~68 mm、尾長35~43 mm、体重8~13 g。
- 生態 昼間のねぐらは樹洞であるが、家屋の壁板の下や天井裏での繁殖例がある。後者の場合は100頭を越える大きな群を作る。日没後、飛翔する昆虫を捕食し、日の出前には帰る。初夏に雌だけの群を形成し、そこで出産・哺育が行われる。出生から約1ヶ月で飛翔可能となる。晩秋には冬眠に入ると思われるが、出産・哺育に利用した家屋のねぐらからは全く姿を消す（前田・山本 1998）。蛾などを、餌としている（Funakoshi and Yamamoto 1996）。17年の最長寿命が他県での調査で確認されている（山本輝正 未発表）。
- 生息環境 自然林内に生息する。
- 国内分布 福島県、栃木県、埼玉県、富山県、石川県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県。
- 県内分布 白山市中宮（山本ら 2005）。
- 危険要因 上記国内分布のうち、出産・哺育が確認されているのは、長野県、石川県、岐阜県のみである（前田・山本 1998、山本ら 2005、山本ら 2008）。
- 特記事項 原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。白山市中宮では、授乳中のメスが複数捕獲され、出産・哺育が確認されている（山本ら 2008）。白山市中宮周辺の森林は、クビワコウモリの生息にとって特に重要であると言える。周辺の森林の完全なる保存が望まれる。
- 参考文献 3, 5, 16, 22, 32, 41, 44, 45, 46, 47



山本輝正（2010年7月17日、長野県松本市）



山本輝正

県内の分布

ヤマコウモリ

コウモリ目 ヒナコウモリ科

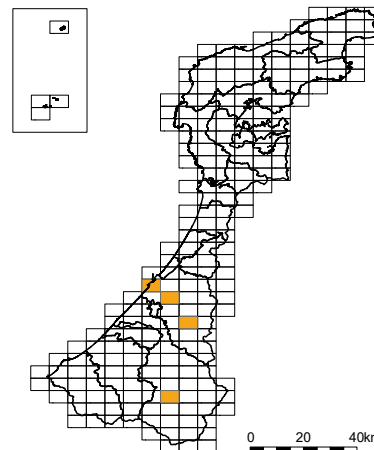
Nyctalus aviator Thomas

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類 環境省カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

- 選定理由 生息確認はあるが、県内のねぐらが確認できていない。
- 形態 前腕長57~65 mm、頭胴長79~108 mm、尾長45~67 mm、体重26~60 g。
- 生態 昼間の生息場所は樹洞。交尾は秋に行われるが、多くは2仔、まれに1仔を初夏に出産する。出産・哺育は20~50頭以上の雌だけの集団で行われる。その間、雄は1~10数頭に分散して小樹洞などを利用する。それ以外は雌雄一緒になり、50~100頭を越える大きな集団で大樹洞を利用する。出生子は生後40~45日でほぼ親と同大になり、自力で飛行を始める（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 生息環境 樹洞を持つ木の多く存在する森や林。
- 国内分布 北海道、本州、四国、九州、対馬（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 県内分布 現在確実なねぐらは確認されていない。これまで確認記録は、白山周辺の1ヶ所と金沢市内の4ヶ所。
- 危険要因 多くの樹洞が存在する森や林の減少。
- 特記事項 採餌個体が捕獲されたことから白山山系にねぐらがあるものと考えられる。石川県内の個体数が少ないものと考えられる。
- 参考文献 3, 16, 32, 36, 38, 42, 47



山本輝正（2008年10月31日、岐阜県岐阜市）



山本輝正

県内の分布

ヒナコウモリ

コウモリ目 ヒナコウモリ科

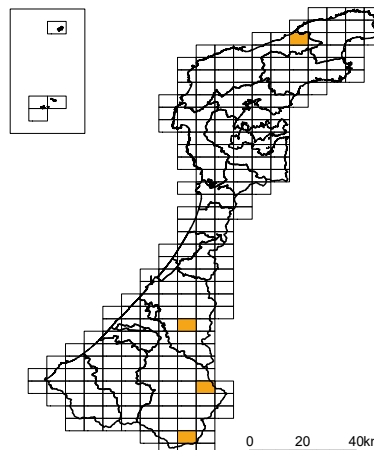
Vespertilio sinensis (Peters)

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅰ類 環境省カテゴリ なし

- 選定理由 これまで県内では数例しか確認されていない。
- 形態 前腕長44~54 mm、頭胴長60~79 mm、尾長33~50 mm、体重14~30 g。
- 生態 1年中集団で樹洞を利用するが、家屋や海蝕洞なども繁殖の場所として利用する。出産哺育地は少ないが（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）、近年、高架橋下など人工構造物をねぐらとして利用している例が報告されている。冬眠場所は知られていない。雌親ばかり100頭を越える出産・哺育集団で初夏に1~3仔を出産する。授乳期間は約35日で、生後5~6週間でほぼ親と同じ大きさになる。雌雄ともに生まれた年の秋に交尾に参加するため、雌は満1歳で出産する（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 生息環境 原生林など。
- 国内分布 北海道、本州、四国、九州。
- 県内分布 白山市白峰の別当出合（上馬・三原 1995）と同市中宮（山本ら 2005）、金沢市内（稲葉・山本 未発表）、能登半島（山本 未発表）。
- 危険要因 本来の生息場所である樹洞を持つ森林の減少。
- 特記事項 県内で授乳中の個体が捕獲されたことより、白山地域で出産哺育を行っているものと考えられる（山本ら 2005）。
- 参考文献 3, 16, 37, 44, 47



山本輝正（2014年7月13日、長野県松本市）



山本輝正

県内の分布

ヒメヒナコウモリ コウモリ目 ヒナコウモリ科

Vespertilio murinus Linnaeus

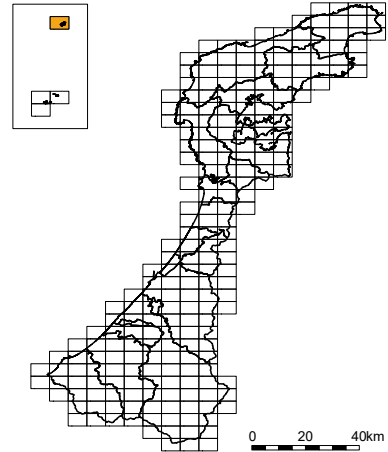
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅰ類

環境省カテゴリー 情報不足

- **選定理由** 国内確認例は少なく、石川県は他の生息場所（北海道と青森県）から極端に離れている。
- **形態** 前腕長44.2~46.0 mm、頭胴長55.0~64.7 mm、尾長36.9~46.0 mm、体重8~12 g。ヒナコウモリに酷似しているが、やや小ぶりであることと、メスは乳頭を2対持つことから判別できる。
- **生態** 北海道で出産哺育群が確認されている。
- **生息環境** 詳しくは不明である。
- **国内分布** 北海道、本州（青森と石川県のみ）。（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015 b）。
- **県内分布** 舩倉島で死体を回収（水野ら 2011、Kawai et al. 2015）。遺伝的には北海道産のものと同じである（Kawai et al. 2015）。
- **特記事項** 北海道と能登半島・舩倉島間での移動をしている可能性及び大陸との移動の可能性もあり、今後さらなる調査が必要である。
- **参考文献** 3, 16, 21, 28, 32



山本輝正（2013年7月13日、北海道大空町）



山本輝正

県内の分布

ヒメホオヒゲコウモリ コウモリ目 ヒナコウモリ科

Myotis ikonnikovi Ognev

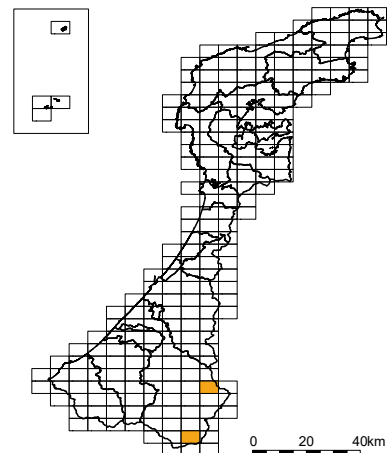
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 本種が生息するブナ林帯より上部の原生林はきわめて限られている。
- **形態** 前腕長31~36 mm、頭胴長39~55 mm、尾長31~41 mm、体重4~8 g。同定は難しいが、前腕長37mm以下で、下腿長17mm以下が目安となる。
- **生態** ねぐらは樹洞と思われるが、本州の一部では家屋でも繁殖をしている。初夏に1仔を出産する（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- **生息環境** 原生林が残された地域にのみ生息するため、県内においてもその生息地はきわめて限られている。
- **国内分布** 北海道、本州、四国（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- **県内分布** 白山市白峰の市ノ瀬六万山周辺と同市中宮（佐野・上馬 1981、山本 1998、山本ら 2005）。
- **危険要因** 白山周辺における天然林の伐採。
- **特記事項** 生息域は狭く、確認された個体数も少ない。石川県ではまれにしか確認できない種である。
- **参考文献** 3, 23, 32, 33, 38, 42, 44, 47



山本輝正（2014年7月12日、長野県松本市）



山本輝正

県内の分布

カグヤコウモリ

コウモリ目 ヒナコウモリ科

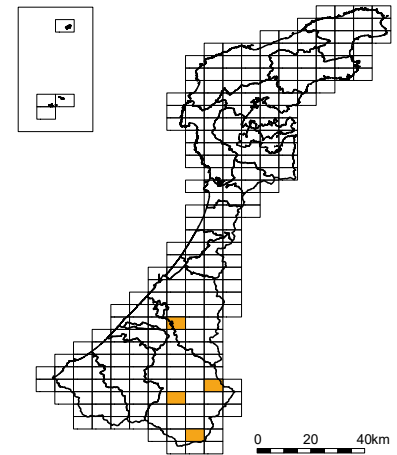
Myotis frater Allen

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 環境省カテゴリー なし

- 選定理由 県内での分布域が限られている。
- 形態 前腕長36~42 mm、頭胴長41~55 mm、尾長37~46 mm、体重6~11 g。
- 生態 1年を通じて樹洞をねぐらとするが、洞穴にいた例や家屋内で100頭を越える繁殖集団を作ることが知られている。初夏に1仔を出産。生後約30日で親と同じ大きさになり飛翔を始める。雌は1年3~4ヶ月で交尾し、満2才で出産する。夜に飛翔する昆虫類を捕食する（阿部ら2008、コウモリの会編2011、Ohdachi et al. 2015）。白山地域で最長寿命が18年の雄個体が確認された。また、成獣・亜成熟の年平均生存率は、0.871である（山本・松本2016）。
- 生息環境 本州中部地方より北の自然林に生息する。
- 国内分布 岐阜・石川両県以東の本州、北海道（阿部ら2008、コウモリの会編2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 県内分布 白山周辺。
- 危険要因 生息可能な森林が急速に減少しており、森林の保護が望まれる。
- 特記事項 本種が多く捕獲されることが白山地域の特徴（山本1998）。白山地域の特に樹洞を持つような巨木のある森の保全が望まれる。
- 参考文献 3, 16, 32, 33, 38, 42, 43, 47



山本輝正（2010年7月17日、長野県松本市）



山本輝正

県内の分布

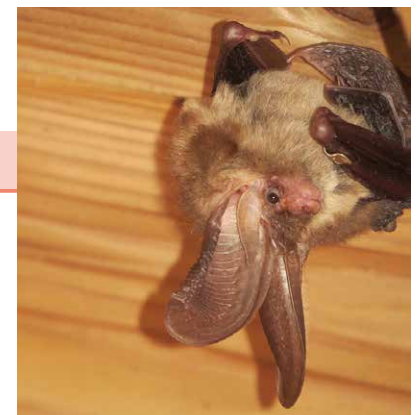
ニホンウサギコウモリ

コウモリ目 ヒナコウモリ科

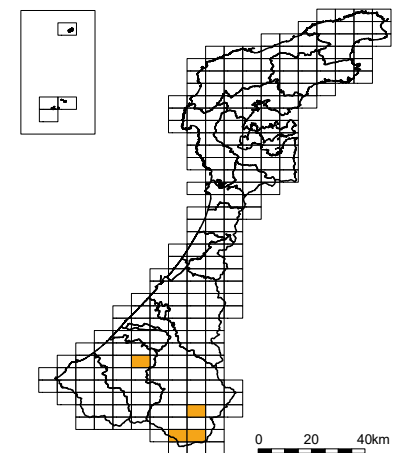
Plecotus sacrimontis G. M. Allen

石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類 環境省カテゴリー なし

- 選定理由 日本固有種で、分布が限られ、確認個体数も極めて少ない。
- 形態 前腕長37~44 mm、頭胴長42~63 mm、尾長41~58 mm、体重6~11 g。
- 生態 大木の多い地域では昼間の隠れ家として樹洞を集団で利用するが、洞穴や家屋もよく使う。初夏に1仔を出産する（阿部ら2008、コウモリの会編2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 生息環境 自然がよく残っている森林を生息場所としている。
- 国内分布 北海道、本州（中国地方を除く）、四国、九州（阿部ら2008、コウモリの会編2011、Ohdachi et al. 2015）。
- 県内分布 白山地域。
- 危険要因 もともと大きなコロニーが確認されたことが無く、生息場所となる自然がよく残った森林が減少。
- 特記事項 県内での近年確認例がない。
- 参考文献 3, 16, 32, 33, 38, 39, 42, 47



山本輝正（2018年8月3日、長野県松本市）



山本輝正

県内の分布

テングコウモリ

コウモリ目 ヒナコウモリ科

Murina hilgendorfi (Peters)

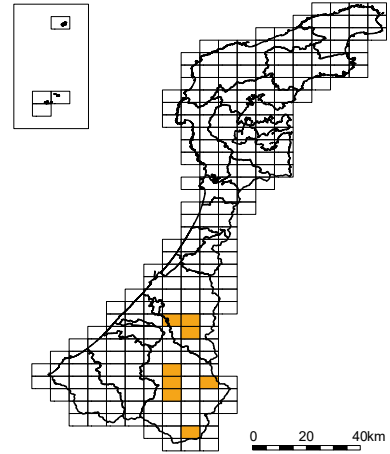
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 分布域が限られており、確認できた個体数も極めて少ない。
- **形態** 前腕長40~46 mm、頭胴長47~70 mm、尾長32~47 mm、体重8~19 g。
- **生態** 大木の多い地域では樹洞を昼間の隠れ家にするが、洞穴内でもよく見つかる。しかし、単独でいることが多く、10頭を越える群れはほとんど見つかっていない。夜には飛翔する昆虫類を捕食する。一般に森林内の下層で捕食するらしい。出産は初夏に行われるらしい。
- **生息環境** 自然林内に生息。
- **国内分布** 北海道、本州、四国、九州（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- **県内分布** 金沢市・白山周辺。
- **危険要因** 生息環境の開発。
- **参考文献** 3, 16, 32, 33, 38, 43, 44, 47



山本輝正（2006年5月21日、石川県白山市）



山本輝正

県内の分布

コテングコウモリ

コウモリ目 ヒナコウモリ科

Murina ussuriensis Ognev

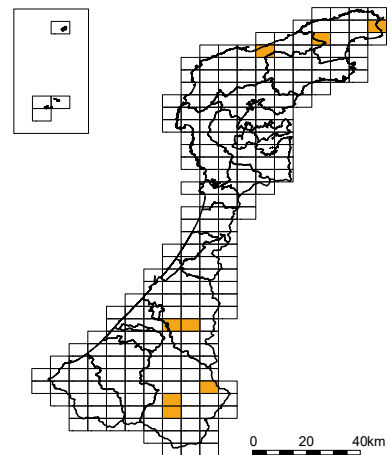
石川県カテゴリー 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 確認できた個体数が少ない。
- **形態** 前腕長28~35 mm、頭胴長41~54 mm、尾長26~33 mm、体重4~8 g。
- **生態** 昼間の隠れ家は樹洞のほか木の茂み、樹皮の間隙、落ち葉の下、洞穴内、家屋内でも見つかっている。夜間に樹間、葉間を飛翔する昆虫類を捕食するが、葉上に静止している昆虫類も捕食するらしい。1~2仔を初夏に生産する。
- **生息環境** 原生林内に生息する。
- **国内分布** 北海道、本州、四国、九州、対馬、壱岐（阿部ら 2008、コウモリの会編 2011、Ohdachi et al. 2015）。
- **県内分布** 白山周辺や能登半島。
- **危険要因** 生息環境の開発。
- **参考文献** 3, 16, 32, 33, 38, 43, 44, 47



山本輝正（2012年8月20日、長野県松本市）



山本輝正

県内の分布

ミズラモグラ

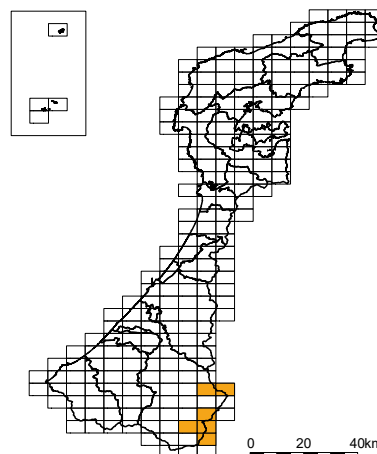
モグラ目 モグラ科

Euroscaptor mizura (Gunther)

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリ 準絶滅危惧

- **選定理由** 県内では、白山地域の山地帯から高山帯の限られた地域に分布。日本固有種。
- **形態** モグラ属とミズラモグラ属とは口吻上面の裸出部が異なるほか歯数もモグラ属は42本に対してミズラモグラ属は44本である。体重26~35.5g、頭胴長80~106.5mm、尾長20~26mm、後足長13.5~15.4mm (阿部ら 1994)。
- **生態** ミズラモグラは、モグラ亜科の中では「最初に大陸から日本へ入ってきた」原始的な種類と言われている(今泉 1987)。昆虫類、ミミズ類、ジムカデ類、ヒル類などを食べる。
- **生息環境** 亜高山帯、高山帯等では土壌の見られる場所で生息。
- **国内分布** 国内では広島から東北まで分布しているが孤立分布を示し、中部地方の山岳地帯に多い(阿部ら 1994)。
- **県内分布** 本県では16件の資料が得られ6メッシュの分布が見られた。うち4メッシュは白山市白峰地区(13件)の亜高山帯から高山帯の資料であったが(林・子安1998、石川県哺乳類研究会編 1999)、2メッシュは白山市中宮地区(3件)の山地帯のものであった。
- **危険要因** 温暖化の影響による白山の高山帯の脆弱性が進行し、土壌環境の変化。
- **特記事項** 日本哺乳類学会(1997)では山岳地に分布すること、生息密度が低いことから希少種にしている。環境省では本種を3亜種として記載。
- **参考文献** 1, 8, 9, 12, 30



林 哲

県内の分布

アズミトガリネズミ

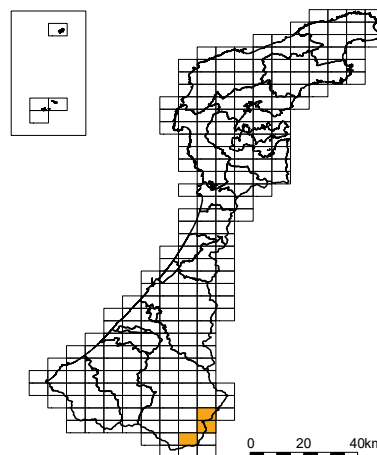
モグラ目 トガリネズミ科

Sorex hosonoi Imaizumi

石川県カテゴリ 絶滅危惧Ⅱ類

環境省カテゴリ 準絶滅危惧

- **選定理由** 白山地域の山地帯から高山帯を中心とする限られた地域に分布する。日本固有種。
- **形態** シントウトガリネズミよりやや小型で尾が長く、背面が暗褐色、腹面はより淡色。体重約4.5g前後、後足長10.6~12.2mm。シントウトガリネズミの後足長は通常12mm以上あるが(子安1995、子安・林1997)、白山地域で採集された本種10頭の計測では後足長は平均11.4mmであった(石川県哺乳類研究会編 1999)。
- **生態** 亜高山帯から高山帯にかけての針葉樹林帯、草原帯に生息し、白山高山帯の繁殖期は、7~9月で、胎仔数6(1例)が知られている(子安・林 1997)。
- **生息環境** 亜高山帯から高山帯の針葉樹林帯の腐植層で生息するが、生態は十分に判明していない。
- **国内分布** 本州中部の北、中央、南アルプス、奥秩父、志賀山などに分布する。
- **県内分布** 1990年10月、白山釈迦新道で採集され、日本における新たな分布地となった(子安ら 1993)。その後、白山高山帯で11個体、収蔵標本3個体が確認され(子安・林 1997)、また今回の調査で6件の標本が確認され、本県における分布資料は21件となった。そのほとんどは白山の亜高山帯から高山帯の3メッシュの分布であった。
- **生息地** 主に白山地域の亜高山帯~高山帯。
- **危険要因** 低山帯からテンやキツネ、ニホンザル、ニホンジカなどの哺乳類の侵入による山地帯、亜高山帯、高山帯生態系の脆弱性の進行。
- **参考文献** 17, 18, 19, 20



林 哲

県内の分布

ヒメヒミズ

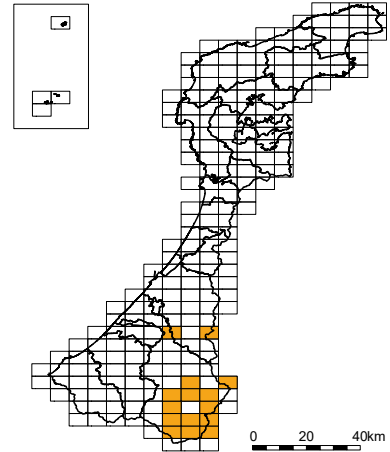
モグラ目 モグラ科

Dymecodon pilirostris True

石川県カテゴリー 準絶滅危惧

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 県内では、白山地域の山地帯から高山帯の限られた地域に分布。日本固有種。
- **形態** 小型のモグラ類。吻は細長く、耳介を欠く。上顎の門歯は先端がへら状。下顎歯数は片側9本、うち前臼歯4本。ヒミズは下顎歯数片側8本でうち前臼歯3本。背面が黒色または黒褐色、腹面は淡色。
- **生態** 比較的標高の高い地域の草地、低木林、高木林の落葉層や腐植層にすみ、主に昆虫類やミミズ類を食べる。近接地にヒミズが生息している場合、本種は土壌の浅い場所や岩礫地に住んでいることが多い(阿部ら 1994)。
- **生息環境** 主に白山地域の山地帯～高山帯の草地、低木林、高木林の落葉層や腐植層で生活する。
- **危険要因** 白山地域の山地帯、亜高山帯、高山帯の保全が継続的に必要。
- **国内分布** 本州、四国、九州に分布。
- **県内分布** 県内では金沢市、白山市で49件78頭の資料が得られ、13メッシュの分布(林・子安 2000)であったが、今回の調査と整理の結果、15メッシュの分布となった。白山の亜高山帯から高山帯の資料が多かったが、金沢市二又、白山市三宮、白山市釜谷など標高400～500mの山地帯でも分布。国内分布の下限は標高約1,000mとされているので(今泉 1973、木村 1984、小林・山口 1971)、白山地域の低標高地の分布は全国的には希少。
- **特記事項** 日本哺乳類学会(1997)では普通種として記載。四国、九州、紀伊半島は保護すべき地域個体群。
- **参考文献** 10, 11, 14, 15



林 哲

県内の分布

シントウトガリネズミ

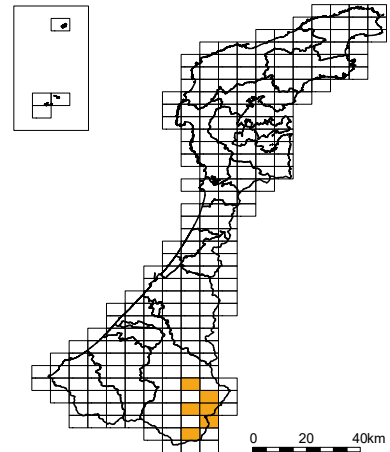
モグラ目 トガリネズミ科

Sorex shinto Thomas

石川県カテゴリー 準絶滅危惧類

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 県内では、白山地域の山地帯から高山帯を中心とする限られた地域に分布。日本固有種。
- **形態** トガリネズミ類では中型で尾が長い。夏毛の背面は赤褐色、腹面は薄茶色。アズミトガリネズミよりやや大きい。外形は酷似。後足長は白山地域では12mm以上の個体が多い。採集された10頭の平均は12.3mm(子安1995、子安・林 1997)。
- **生態** 森林や低木林などの落葉層や腐植層にすみ、昆虫やクモ類、ジムカデ類を食べる。春に2～6頭の仔を産む(阿部ら 2005)。
- **生息環境** 主に白山地域の山地帯～高山帯の針葉樹林、草原帯。
- **国内分布** 佐渡島および本州の紀伊半島、京都府以北の山地、四国の山地。
- **県内分布** 白山市の山地帯から高山帯(花井1978、子安・林1997、水野・八神 1985、信太1983)。これまでの資料から県内では5メッシュであったが(石川県哺乳類研究会編1999)、今回の調査で1メッシュ増え、6メッシュとなった。
- **危険要因** 白山地域の山地帯～高山帯生態系の脆弱性の進行。
- **参考文献** 7, 18, 19, 26, 35



林 哲

県内の分布

カワネズミ

モグラ目 トガリネズミ科

Chimarrogale platycephala (Temminck)

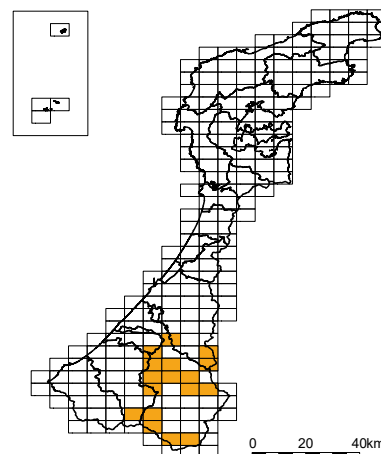
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 日本固有種。加賀地域、白山麓地域の河川源流域に生息し、個体数が少ない。
- **形態** 背面は夏には暗褐色、冬は灰色で、腹面は白色。指に水かきの役割をする剛毛が生える。また尾にも長い毛が生えている。頭胴長111～141mm、尾長82～117mm、後足長23～29.4mm。体重25～63g。
- **生態** 溪流に住み、魚類の稚魚、水生昆虫、サワガニなどを餌とする。河畔の乾燥した石礫の間に巣を作り春と秋に2～4頭の子を産む。
- **国内分布** 本州、九州。
- **県内分布** 加賀地方の山間部の溪流。金沢市、白山市、能美市、小松市。
- **危険要因** 河川の改修。餌となる魚類、水生昆虫などの減少。生息環境の劣悪化。
- **参考文献** 3, 9



林 哲



野崎英吉

県内の分布

カヤネズミ

ネズミ目 ネズミ科

Micromys minutus (Pallas)

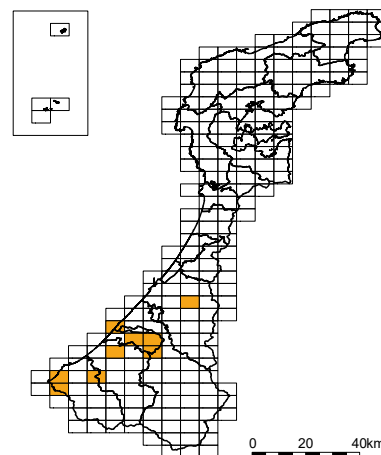
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 河川、湖沼、水田周辺のイネ科、カヤツリグサ科の草地にのみ生息し、生息地の改変により個体数が少ない。
- **形態** 背面は暗褐色で腹面は白色。頭胴長50～80mm、尾長61～83mm。体重7～14g。
- **生態** イネ科草本などに球形の巣を作る。冬期は畦道の地表堆積物や地下坑道にも生息する。
- **生育環境** イネ科、カヤツリグサ科の植物が密生し、春から秋にかけては刈り払いが行われず、冬期に刈り払い、火入れが行われ、草が維持されている環境が好ましい。
- **国内分布** 北海道、東北、南西諸島の多くを除く全国。
- **県内分布** 加賀地方の平野部。
- **危険要因** 河川や湿地の改修による自然草地の消滅。採草地などの放棄による草地の森林化。
- **参考文献** 2, 13, 29



加賀市鴨池観察館提供



八神徳彦

県内の分布

ヤチネズミ

ネズミ目 ネズミ科

Eothenomys andersoni (Thomas)

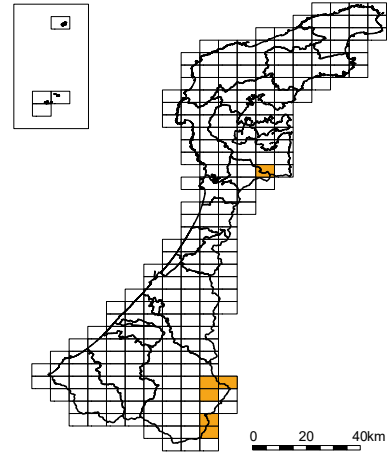
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 本県における情報は少なく、亜高山帯以上の森林に限られて分布する。日本固有種。
- **形態** 背面は赤褐色から黄褐色、頭胴長79~118mm、尾長40~63mm。ハタネズミ、スミスネズミに似る。
- **生態** 主に草の葉や根、樹皮などを採食し、森林の岩や木の根の間で生活すると思われる。
- **生育環境** 高山・亜高山帯の苔むした岩の堆積したハイマツ、森林、林縁部で主に採集されている。
- **国内分布** 本州の中部、北陸以北と紀伊半島南部。
- **県内分布** ほとんどが白山周辺の標高1,500m以上。石動山山頂部で1頭採集された記録も残っている。
- **危険要因** 生息地のほとんどが白山国立公園特別保護地区で確認されているが、分布地が分断されており、白山の高山帯でのハタネズミとの競合が注目される。
- **特記事項** 白山室堂周辺で1977年の記録ではヤチネズミが採集されているが、1996,1997年にはヤチネズミが採集されず、ハタネズミが採集され、ハタネズミの侵入が起きていると指摘されている。
- **参考文献** 2, 6



石川県白山自然保護センター提供



八神徳彦

県内の分布

ニホンモモンガ

ネズミ目 リス科

Pteromys momonga Temminck

石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

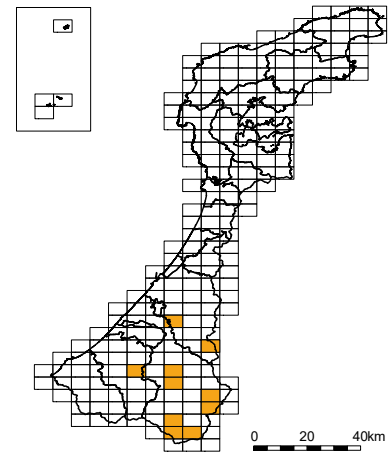
環境省カテゴリー なし

- **選定理由** 加賀地域や白山地域の限られた地域に分布。日本固有種。
- **形態** ムササビに似るが、ずっと小さい。尾はやや短く、目が大きく皮膜は小さい。背面は灰褐色から茶褐色。体重約200g、頭胴長15~20cm、尾長9~14cm。乳頭が5対(乳頭式2+2+1=10)で、タイリクモモンガ(エゾモモンガ)の4対とは異なる。
- **生態** 本種は北方系で寒冷な地方に多く、温暖な地方にはすくない。山地の森林に棲む。ムササビのように滑空する。夜行性で堅果、果実、木の芽、昆虫などを食べる。スギ、ヒノキなどの樹洞に巣を作る。
- **生息環境** 低山帯から山地帯の森林が主な生息地。
- **国内分布** 本州、四国、九州に分布。
- **県内分布** 2009年までは金沢市、白山市、小松市などの13件の情報から8メッシュの分布であったが、今回の調査により2件2メッシュ増え、10メッシュの分布となった。
- **危険要因** 情報量が少ないため、生息調査が必要。
- **特記事項** 本種の生態に関する情報量が少なく、不明の点が多い。日本哺乳類学会(1997)では、普通種。九州地域は保護すべき地域個体群に指定。
- **参考文献** 9, 11, 30



※尾の一部欠損

林 哲



林 哲

県内の分布

ヤマネ

ネズミ目 ヤマネ科

Glirulus japonicus (Schinz)

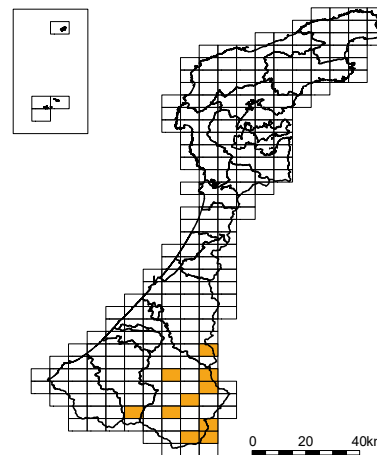
石川県カテゴリー 準絶滅危惧

環境省カテゴリー 準絶滅危惧

- **選定理由** 本県における情報は少なく、加賀地域の山間部に分布が限られている。日本固有種。
- **形態** ネズミに似るが尾には長い毛を生じ、背部に黒色の線がある。頭胴長68～84mm、尾長44～54mm。
- **生態** 主に樹上で生活し、樹洞内などで樹皮やコケを集めて球形の巣を作る。寒冷期に冬眠し建物内に侵入することもある。
- **生息環境** 主に低山帯から亜高山帯の成熟した森林。
- **国内分布** 本州、四国、九州、隠岐島後。
- **県内分布** 確認されたのは加賀地方山間部がほとんどだが白山室堂でも確認されている。
- **危険要因** 特にないが、成熟した森林の保全が必要。
- **特記事項** 国の天然記念物に指定されている。
- **参考文献** 2, 24



石川県白山自然保護センター提供



八神徳彦

県内の分布

オコジヨ

ネコ目 イタチ科

Mustela erminea (Linnaeus)

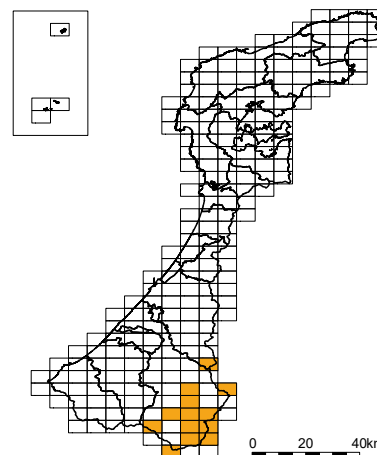
石川県カテゴリー 準絶滅危惧種

環境省カテゴリー 準絶滅危惧種

- **選定理由** 白山地域の高山帯、亜高山帯にのみ生息し、個体数が少ない。
- **形態** 尾の先端部の毛のみ黒色。被毛は背面が夏に褐色、喉の下から腹にかけては白色。冬には全身白色。頭胴長140～198mm、尾長48～67mm。体重約100g。
- **生態** 高山帯、亜高山帯の岩礫地を中心にネズミ類、鳥類の卵、ひなを餌とするほか、高山植物の果実などを食べる。地上に姿を見せることは少なく、地下空間を移動する。
- **国内分布** 白山以東の本州の高山帯、亜高山帯に生息。
- **県内分布** 白山の亜高山帯、高山帯が主な生息地。冬期に白山市の標高600m付近で白化個体を観察。
- **危険要因** 地球温暖化に伴う、積雪量、高山帯植生の減少、競合種の増加。
- **参考文献** 3, 26, 27, 31



谷野喜代子



野崎英吉

県内の分布

参考文献一覧

- 1 阿部永監修 (1994) 日本の哺乳類 東海大学出版会
- 2 阿部永監修 (2005) 日本の哺乳類改訂版. 東海大学出版会.
- 3 阿部永監修 (2008) 日本の哺乳類改訂2版、東海大学出版会
- 4 千葉徳爾 (1993) 金沢に出没!! ニホンオオカミ. はくさん 87 : 2-7. 石川県白山自然保護センター
- 5 Funakoshi, S and Yamamoto, T. (1996) Moths, containing several species of *Amphipyra*, eaten by different bats at two sites. *Trans. Lepid. Soc. Jpn.* 47, 201 – 208.
- 6 花井正光 (1977) 石川県の自然環境. 第3分冊鳥獣.
- 7 花井正光 (1978) 白山高山帯の哺乳類相 石川県白山自然保護センター研究報告 4 : 83 – 92.
- 8 林哲・子安和弘 (1998) 白山地域のミズラモグラの分布. 石川県白山自然保護センター研究報告 25 : 25-28.
- 9 石川県哺乳類研究会編 (1999) 石川県の哺乳類 石川県
- 10 林哲・子安和弘 (2000) 石川県におけるヒミズ類の分布. 石川県白山自然保護センター研究報告 25 : 29 – 36.
- 11 今泉吉晴 (1973) 富士山麓・青木ガ原の地下生活者 アニマ 9 : 4-20 平凡社
- 12 今泉吉晴 (1987) 空中モグラあらかる 岩波新書
- 13 井上耕治・高橋雅雄・山口順司・和田陽介 (2004) 金沢大学角間キャンパスの里山ゾーンにおける哺乳類調査. 平成15年度学長研究奨励費研究結果報告書.
- 14 木村吉幸 (1984) 磐梯山地域における食虫類とネズミ類の群集密度について 哺乳動物学雑誌 10 (2) : 87-97.
- 15 小林峯生・山口佳久 (1971) 丹沢山塊におけるヒメヒミズの分布と小哺乳類相について 神奈川県立博物館調査研究旧報告, 自然科学 : 1-23
- 16 コウモリの会編 (2011) 佐野明・福井大監修. コウモリ識別ハンドブック 改訂版. 文一総合出版, 東京
- 17 子安和弘・原田正史・野崎英吉 (1993) 石川県白山麓におけるトガリネズミの捕獲記録. 石川県白山自然保護センター研究報告 20 : 33-34.
- 18 子安和弘 (1995) 白山のトガリネズミ類. はくさん 22 : 2-5. 石川県白山自然保護センター
- 19 子安和弘・林哲 (1997) 白山高山帯における野生小哺乳類. 石川県白山自然保護センター研究報告 24 : 23 – 32.
- 20 子安和弘 (1998) 日本産トガリネズミ亜科の自然史 (阿部永・横畑泰志 食虫類の自然史), 比婆科学教育振興会 (広島県庄原市)
- 21 Kuniko Kawai, Terumasa Yamamoto, Kazuhiko Ishihara and Akinori Mizuno (2015) First record of the parti-coloured bat *Vespertilio murinus* (Chiroptera: Vespertilionidae) from the Ishikawa Prefecture provides insights into the migration of bats to Japan. *Mammal Study* 40 : 121-126.
- 22 前田喜四雄・山本輝正 (1998) コウモリ類, 安曇村誌 第1巻 自然 : 521-53.
- 23 前田喜四雄 (2001) 日本コウモリ研究誌 翼手類の自然史. 東京大学出版会, 東京
- 24 三原ゆかり・野崎英吉 (2003) 石川県内におけるヤマネの生息状況. 石川県白山自然保護センター研究報告 30 : 31-35.
- 25 水野昭憲・八神徳彦 (1985) 白山亜高山帯・高山帯の動物. 哺乳類. 白山高山帯自然史調査報告書
- 26 水野昭憲・八神徳彦 (1985) ほ乳類 白山高山帯自然史調査報告書. 石川県白山自然保護センター
- 27 水野昭憲 (1994) 白山山系のオコジョの分布. 石川県白山自然保護センター研究報告 21 : 21-26.
- 28 水野昭憲・宮崎光二・石原一彦・真野哲三 (2011) 舩倉島・七ツ島の陸生動物相 (舩倉島・七ツ島自然環境調査団, 編), 能登 舩倉島・七ツ島の自然環境 (2008 ~ 2010年), 舩倉島・七ツ島自然環境調査団, 金沢.
- 29 中村晃規 (2009) むしとりあみ通信 (2009年11月). 金沢大学「角間の里山自然学校」.
- 30 日本哺乳類学会 (1997) レッドデータ 日本の哺乳類 文一総合出版
- 31 野柴木洋・上馬康生 (1998). 哺乳類 白山におけるホンダオコジョの繁殖および分布状況について. 環境庁委託業務報告書平成9年度生態系多様性調査 (白山) 報告書. 79-89.
- 32 Ohdachi SD, Ishibashi Y, Iwasa MA, Fukui D, Saitoh (eds) (2015) *The Wild Mammals of Japan* Second edition. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto
- 33 佐野明・上馬康生 (1981) 白山地域に生息する翼手類について, 石川県白山自然保護センター研究報告 7 : 23-29.
- 34 佐藤顕義・勝田節子・山本輝正 (2008) 大井川水系および天竜川水系で確認したノレンコウモリ *Myotis nattereri* の出産哺育と周年活動. コウモリ通信 16 : 2 – 9.
- 35 信太照夫 (1983) 白山北稜の小哺乳類 石川県白山自然保護センター研究報告 9 : 57 – 65.
- 36 上馬康生・南他喜男 (1984) 金沢市内で発見されたヤマコウモリの冬眠例. 白山自然保護センター研究報告 11 : 85-86.
- 37 上馬康生・三原ゆかり (1995) 石川県内白山地域で捕獲されたヒナコウモリ, 白山自然保護センター研究報告 22 : 17-18.

- 38 山本輝正 (1990) 石川県のコウモリ. 石川の生物, 石川の生物編集会 (編), 石川県高等学校研究会生物部会.
- 39 山本輝正 (1994) 白山石川県側のコウモリ1. 岐阜ふるさとと動物通信 60 : 967.
- 40 山本輝正 (1995) 白山石川県側のコウモリ2. 岐阜ふるさとと動物通信 62 : 996.
- 41 山本輝正・橋本肇・植木康德 (1998) 乗鞍高原のコウモリ. 岐阜県高等学校教育研究会生物教育研究会雑誌 42 : 12-18.
- 42 山本輝正 (1998), 環境庁委託 平成9年度生態系多様性地域調査 (白山) 報告書.
- 43 山本輝正・野崎英吉 (2002) 白山地域におけるコウモリ目相. 石川県白山自然保護センター研究報告 29 : 73-76.
- 44 山本輝正・上馬康生・野崎英吉 (2005) 石川県白山地域のコウモリ相調査 - 1998年~2005年の調査結果より-. 石川県白山自然保護センター研究報告 32 : 25-30.
- 45 山本輝正・梶浦敬一・近藤宗由 (2008) 岐阜県野麦峠周辺のコウモリ相. 岐阜県博物館調査研究報告 29 : 45-48.
- 46 山本輝正・佐藤顕義・勝田節子 (2008) 長野県におけるコヤマコウモリ *Nyctalus fuscus* とクビワコウモリ *Eptesicus japonensis* の採集記録. 哺乳類科学 48 (2) : 277-280.
- 47 山本輝正 (2015) 御嶽山麓周辺のコウモリ相. 森林野生動物研究会誌 40 : 21-28.
- 48 山本輝正 (2016) 金沢市山川町及び額谷町の石切り場廃坑のコウモリ相. 石川県立自然史資料館研究報告 6 : 25-42.
- 49 山本輝正・松本和馬 (2016) カグヤコウモリ (*Myotis frater*) オス個体群の21年間にわたる個体群調査. 哺乳類科学 56 (2) : 135-144.